

はじめに

不易流行の視点から、学校文化は子ども・学校・地域社会、即ち在校生や卒業生、先生方、地域の方々によって培われてきた学校独自の伝統・校風としての特徴を総称しています。つまり、「社会に開かれた教育課程」の基底に流れる教育理念でもあります。この学校文化を生かした特色ある学校づくりを進めるためには、学校文化形成の担い手である子どもたちが、学校の真ん中にある存在でなければなりません。このことについて、中央教育審議会は「一人一人の子供を主語にする学校教育の目指すべき姿（令和3年1月26日、中教審答申より）」であると述べています。教師をめざす学生の皆さん、「一人一人の子供を主語にする学校教育の目指すべき姿」を具現化するために教員採用選考試験が行われるものと理解してください。合格の近道は、自ら意図的・計画的に取り組むことができる「学び続ける教師」をめざすことです。これまでの教員採用選考試験のための面接練習・研修会に参加した学生は、次のような不安を述べています。

- ・集団面接に関しても、アドバイスや情報をくださると有難いです。
- ・対策方法が、いまいち、分かっていません。この時期から始めていける方法をご教授していただきたいです。よろしく願いいたします。
- ・1から教えて頂けたら嬉しいです。
- ・今やるべきことがわかりません。いつから本格的に取り組むべきか、知りたい。
- ・もしこれはやっつくべきというものがあれば教えていただきたいです。
- ・筆記試験が不安です。
- ・勉強法として過去問のみをひたすら解いているのですが、これで点数が取れますか？
- ・一般教養や教職教養や専門の勉強しかしておらず、面接の練習をしていません。
- ・面接の一人での練習方法について、知りたい。
- ・面接対策で、個別で、一人での練習方法について、知りたい。
- ・面接の対策方法について、何から何まで知りたい。
- ・全く面接練習には手をつけていないので、参加しても良いのか不安です。
- ・面接対策に力を入れていなく、何から取り掛かればいいのか未だによく分からない。
- ・どのような質問をしてくるのか、それをどのように答えたら良いかわからないです。
- ・仮に採用試験不合格だった場合、その後の動き方、取り組み方について、知りたい。
- ・受験する自治体が国士舘大学の中では珍しいため、みんなと共有したりできないのが不安です。

総合的に見ると、主に教員採用選考試験対策への見通しや学習計画にめどが立つとうれしいという学生が多いと思います。つまり、本テキストは「どのように取り組んだらよいか」という不安を、安心して取り組めるようにしたいと考えて編集しています。基本的な方針について、以下のとおりです。

- (1) 教員採用選考試験対策プランの作成⇒見直し振り返る力を育もう（可能性を引き出す学び）。
- (2) 受験自治体の5年間の過去問分析と方針⇒1次・2次教採対策を一体として計画し、分析力を育もう（個別最適な学び）。
- (3) 模擬テスト受験⇒自己の課題を知り対策プランを修正する力を育もう（修正力）。
- (4) 教職支援室の積極的な活用⇒「一人での学び」から「チームでの学び」を取り入れてください。専門的なアドバイスを活用しよう（協働的な学び）。
- (5) 論作文を通して、授業像・学級像・チーム学校像を育み、個人面接・集団面接・集団討論の場で、分かりやすく伝える力（論理的思考力）を育もう。
- (6) 志願理由・自己PRづくりを通して、教師像を「結論」から述べる力を育もう。

学生の皆さん、本テキストを参考に、教職支援室の教職支援アドバイザーの先生方に相談してください。